

# かずさの博物誌

## ムラサキツバメ

～集団越冬する～

文・写真／成田篤彦

2016.11.20

夏、秋に人通りの少ない、近所の舗装道路の坂を上ると黒いチョウが私の足元を追いかけないように飛んでききます。

坂を下る時も、四つ角の道路でも同じように飛んでいます。

道路すれすれに黒い小石を投げたように飛んでいくので、ほとんどの人は気づかないと思います。

しかし、ムラサキツバメが飛んでいるのです。

というのは、秋に日当たりの良い道路沿いの家屋の壁に止まったことがあったからです。

「なぜ、この周辺の道路で飛んでいるのか？」と不思議に思いました。

さて、坂下の四つ角に見事なマテバシイの垣根があります。

ひよっとしてそこにこのチョウの幼虫がいるのでは？と思いました。

以前、「このチョウを採集するコツは幼虫が食べるマテバシイの樹を探すことです」と聞いたからです。

初秋にその垣根をしばらく観察し

◀マテバシイの垣根 ムラサキツバメの幼虫の食樹  
＝二〇〇七年九月十一日 木更津市



©成田篤彦



©成田篤彦

▲ムラサキツバメのメス  
マテバシイの新芽に止まる  
＝2007年9月11日 木更津市

ていました。

するとムラサキツバメが飛んでき、新芽に腹をまげて腹端を付けました。産卵したと思いました。

また、若葉を巻いた筒状のものがあちこちにありました。

その筒を開くと中にムラサキツバメの幼虫が葉にへばりついていて、アリが集まっていました。

アリは幼虫が出す甘露をなめに来ているのです。

このチョウは十二月になると風雨のあたらない葉の上で、集団越冬します。しかし、一月中旬には集団はなくなり、別な場所で個々に越冬しています。

ムラサキツバメは房総では一九八六年にはじめて館山市で発見されました。その後、二〇一〇年には県下全域に分布するようになりました。

その理由は暖冬になったことと幼虫が食べるマテバシイの樹が公園や垣根に植えられていたからです。

ムラサキツバメは晩秋には陽が当たる

◀ムラサキツバメの幼虫 アリが集まる  
＝二〇〇七年九月十一日 木更津市



©成田篤彦

広い葉によく止まっています。そして、普段ははねを開きませんが、早朝や夕方、体を温めるためにはねを開きます。

裏はねは褐色ですが、はねを開くとオスの表はねは黒紫色で、メスは美しいブルー色です。

上総では秋に農村でも市街地でも陽だまりでよく見られます。

散歩のときに気を付けて見てはいかがでしょうか？



©成田篤彦

▲ムラサキツバメの集団  
＝2005年12月24日 木更津市

### memo

#### ムラサキツバメ

#### チョウ目シジミチョウ科

全長二十一～三十三ミリメートル。本州、四国、九州、台湾、スマトラなどに分布。成虫で越冬し、五月～六月に産卵、その後、連続して発生を繰り返す。

参考文献 房総の草木虫魚70号  
千葉日報 09 九月二十日

©成田篤彦



▶ムラサキツバメのメス  
＝二〇〇八年十二月十二日 木更津市

©成田篤彦



▶ムラサキツバメのオス  
＝二〇一六年八月十二日 木更津市